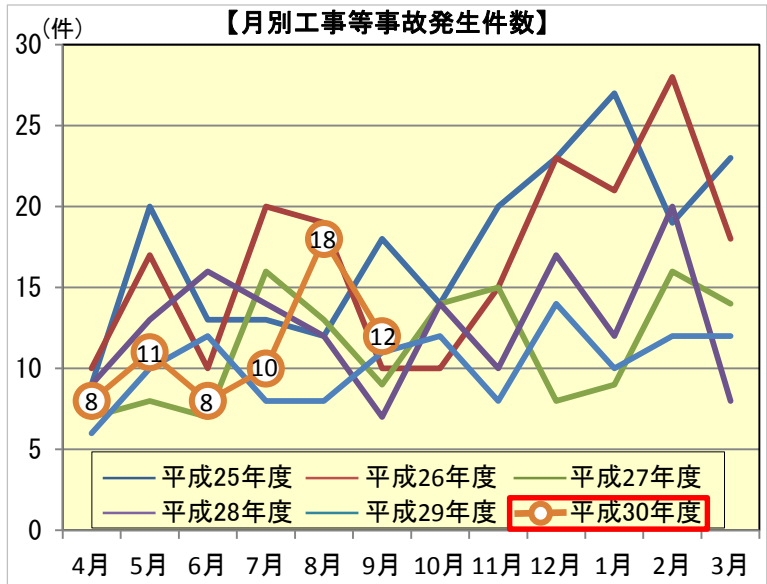
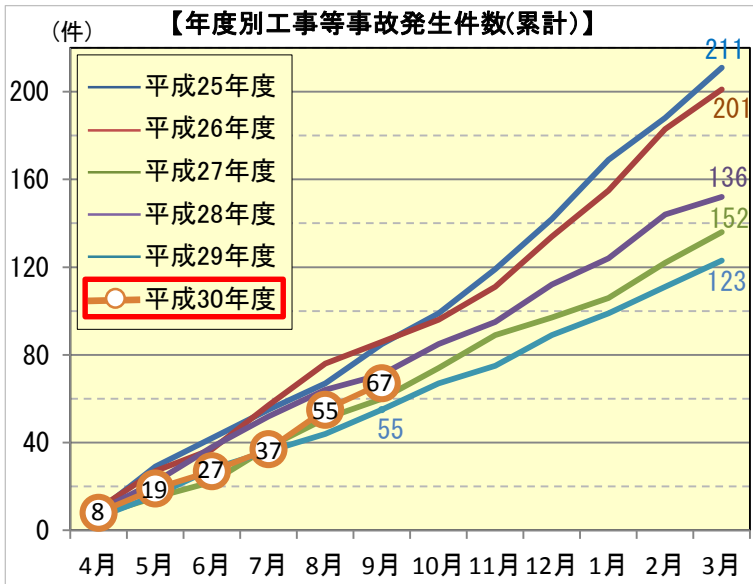
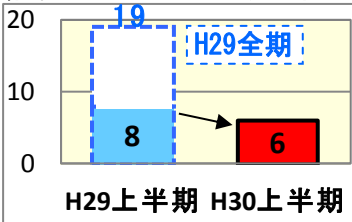


## 平成30年度上半期の直轄工事等事故発生状況について

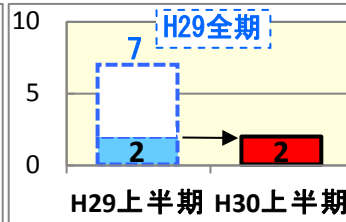
平成30年度上半期の管内直轄工事等事故発生件数を報告します。（暫定値H30.9月末時点）



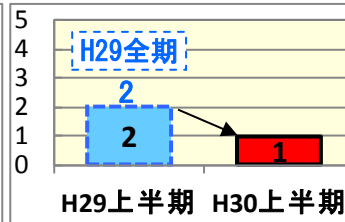
地下埋設管及び敷設ケーブルに対する事故



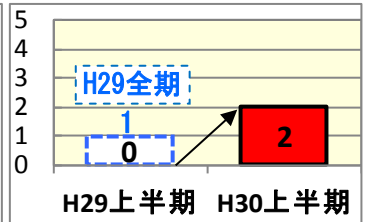
架空線事故



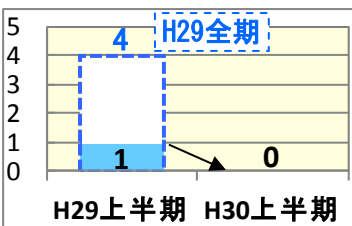
高所作業箇所からの墜落事故



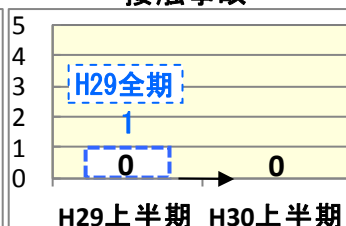
飛来落下による事故



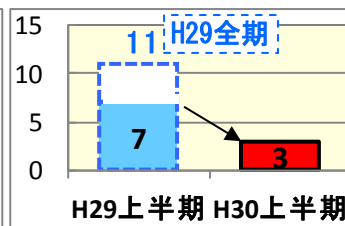
重機の転倒・接触事故



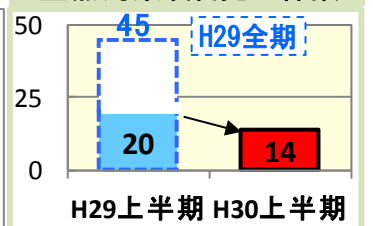
吊り荷と作業員との接触事故



除草作業における事故



重点対策項目発生件数



上半期における工事事故発生件数は67件であり、昨年度の上半期55件と比較し、増加しています。一方で工事等事故防止重点対策項目の事故件数は全体で14件発生であり、昨年度の上半期20件と比較し、減少しています。

## トンネル工事で事故が発生しています

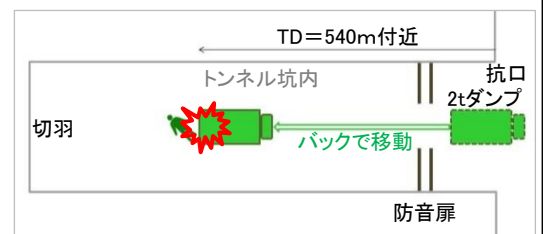
### 発破の装薬作業中に爆発事故が発生

【事故概要】 トンネル切羽部で装薬作業中、既に装薬が完了した天端部の1孔が突然爆発した。被害者は無し。ボーリング作業より孔内温度が上昇し、電気雷管が発火したものと想定される。



### 掘削時の車両移動中に死亡事故が発生

【事故概要】 トンネル掘削作業中において、発破のためいったん防音扉外まで移動した2tダンプが、発破終了後にバックで戻る際、トンネル坑夫をはねてしまい、被害者が死亡した。



# 除草・伐採作業時の作業員被災事故が発生しています



## 草刈り機の接触事故が発生

【事故概要】 路肩法面の除草中に、草刈り作業員が駒止コンクリート上の刈草に足を滑らせた。その拍子に草刈り機がアスファルト舗装に接触し反動で跳ね上がり、飛び石防止ネット支持者に刃先が接触し右ふくらはぎを負傷した。足場の悪い場所で草刈り機を使用したことが主な原因。



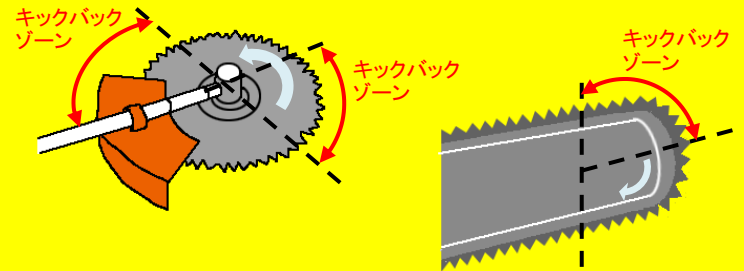
## チェーンソーの接触事故が発生

【事故概要】 線路沿いの雑木を伐採中に線路側に雑木が倒れないように補助者が雑木を支えていたところ、チェーンソーがキックバックし、支えていた作業員の右手肘付近を擦傷させた。当日予定していた有資格者が急に休みにになり、無資格者にチェーンソーを使用させたことが原因のひとつ。



## 草刈り機・チェーンソーの取扱時の注意点

- 作業機器との安全距離を保つなど、作業員の安全を確保しましょう。
- すべり止めのある安全靴、防護メガネやフェイスガード、袖口の閉めた長袖シャツ・長ズボン、手袋など適切な服装で行いましょう。
- 作業前の機械の点検、緊急時の脱着方法の確認を確実にいきましょう。
- 斜面での作業の際は、足下をしっかりと固めて作業を行いましょう。現場の状況に合わせて、事前に手刈りを行いましょう。
- キックバックは非常に危険な現象であることを留意し、キックバックが起こりにくい使い方を守りましょう。キックバックはこんな時に発生します。
  - キックバックゾーン(キックバックを起こしやすい部分)に物が振れたとき
  - 刃が切れないもの(釘や路面)に触れたとき
  - 挟まれるなどして、回転が急に妨げられたとき

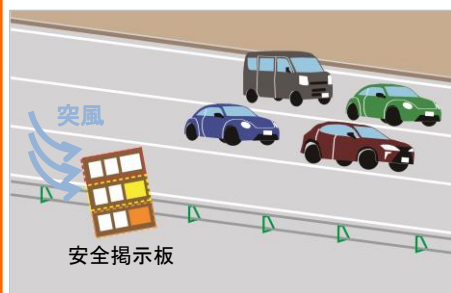


など

(引用:森づくり・安全技術・技能全国推進協議会HP)

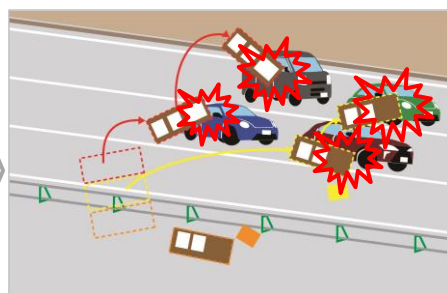
# 突風による飛散で通行車両を損傷

突風による飛散事故が発生しました。強風の予報が出ていなくても突風によって工事関係機材が飛散することがあります。十分な安全対策を講じましょう。



安全掲示板

事故前の安全掲示板



飛散した安全掲示板



【事故概要】 交通規制内の工事用の安全掲示板3枚が突風により単管で組立てた枠組から外れ、その内の2枚の木製合板及び掲示物が信号待ちのため停車していた車両4台に接触した。

単管で組立てた枠組みと工事安全掲示板用合板を連結していた固定用バンド(耐候性ナイロン製品)が、風により切断し飛散したため発生した事故。通常想定される風速に対しては強度計算のうえ必要な数の固定バンドを使用していたが、当日の突発的な強風に対しては強度が不足したと思われる。

## 堅固な固定を行い、強風に備えましょう

暴風警報・強風注意報の発表がない場合、これまでの対策を踏まえて十分な固定をしている場合でも突風によって予想できない事故が発生することがあります。看板や屋外掲示板の固定は、番線などを使用して堅固に固定し、安全性を向上させましょう。

また、強風注意報など気象警報が発令された際には、設置物の臨時点検を行うとともに、必要に応じて追加の安全対策を講じましょう。

